

第1期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

鹿児島大学

平成23年5月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（11項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、2項目が「良好」、8項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「非常に優れている」、2項目が「良好」、8項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「早期に企業の研究者、社会人による講義、実習を拡充し、専門的職業観を育成する」について、教養特別科目「キャリアデザイン」、「稲盛セミナー」等の開講、離島実習を中心とした鹿児島一次医療系講義の実施、また、現代的教育ニーズ取組支援プログラム「地域マスコミと連携した総合的キャリア教育」として、実務家による講義実習を行うなど、実践的な職業観を育成するカリキュラムを実施し、これらの科目が授業評価アンケートで高い満足度を得ていることは、優れていると判断される。
- 中期計画「外国語によるコミュニケーション能力の向上を図る」について、教育センターでは、平成16年度に「英語オープン」の増設、さらに、平成18年度からは実践的な少人数クラス「インテンシブ英語」を開講するなど、コミュニケーション能力の向上を図るカリキュラムを整備し、授業評価アンケートで高い満足度を得ているこ

とは、優れていると判断される。

- 中期計画で「リカレント教育、リフレッシュ教育サービスを向上する」としていることについて、奄美サテライト教室の開設と充実、農学部の社会人対象講座や焼酎学講座（寄附講座）の開設、また、専門職大学院等教育推進プログラム「生きる教師力を育む特別支援学校教員養成」の実施等により、教育サービスを拡充して、広く門戸を開き、積極的に地域の社会人教育に努めていることは、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画で「社会の現実的課題に対して問題意識を持ち、実践的問題解決能力を身につけさせる」としていることについて、地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム「総合小児科医と新たな小児医療参画医が離島へき地小児医療の質を変える」、鹿児島一次医療系講義及び「離島へき地歯科医療学」等によって、学生が医療現場を体験するカリキュラムや卒後臨床研修を充実し、地域の医師不足の解決に取り組んでいることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「日本人学生と留学生との相互交流を深める場を充実する」及び「留学生に対する日本語・日本文化教育を整備する」について、留学生が主体的に行う英会話教室や補習教育、市民を交えた多国籍合宿、カントリートーク、インターナショナルナイト等によって、双方向的な交流の場を着実に充実させ、また、スタディ・ジャパン・プログラムによって、異文化理解や日常生活での交流を深めていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「基礎から先端的な専門領域までの教育を通して高度専門職業人、研究者を育成する」について、専門職大学院臨床心理学研究科を研究科として他に先駆け開設し、実務家教員による指導を充実させ、実践的な臨床心理学教育を展開していることは、特色ある取組であると判断される。

② 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（13 項目）のうち、1 項目が「良好」、12 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「良好」、12 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「国家試験合格、国家資格取得等の目標を立て、勉学意欲の向上を図る」について、国家試験合格や国家資格取得を目指して、情報や履修モデルの提供、カリキュラムの整備等を行っており、農学部獣医学科では個別面談、プレ試験を実施することによって獣医師国家試験の合格率が大幅に改善されたこと等、学習意欲を高めるきめ細やかな対応がなされていることは、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画で「現場体験型カリキュラムを編成する」としていることについて、鹿児島県インターンシップ推進検討会や鹿児島県工業倶楽部との連携を通してインターンシップを積極的に推進し、特に平成17年度に派遣型高度人材育成協同プラン「食の安全マネージャー養成プログラム」において、大学院修士課程を対象としたインターンシップを、各企業と連携して実施していることは、特色ある取組であると判断される。

③ 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 平成16～19年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のすべてが「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、3項目のすべてが「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「教育センターを中心に教育方法等の研究開発を進める」について、特色ある大学教育支援プログラム「鹿児島の中に世界をみる教養科目群の構築」等のカリキュラム開発、TA勤務マニュアルの策定、全学FD委員会と連携した授業公開・授業参観の制度化、市民参加型「教養教育オープンクラス」の開催、新しい英語教育の提言等、鹿児島大学の特色となる教育方法等が開発されていることは、当該大学の教育拠点としての役割を果たしている点で、優れていると判断される。

（改善を要する点）

- 中期計画「博士課程の修学期間内での学位授与率を高める」について、学位授与率を高めるための取組を実施しているものの、第1期中期目標期間内においては修業期間内での学位授与率を高めるには至っていないことから、中期計画は十分には実施さ

れていないと判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「大学間及び学部相互間の単位互換制度を拡充する」について、鹿児島県内の国公立大学等が「大学等間授業交流（単位互換）協議会」を設立して単位互換制度を充実し、参加大学が共同運営するコーディネート科目を開設するなど、学修分野が拡大されていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「附属病院、附属家畜病院での臨床教育を充実する」について、全国の医学部生や大学院生及び医師に門戸を開いて、離島へき地医療に貢献できる医療人の育成を目的とする全国唯一の「離島へき地医療人育成センター」を設置したことは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「教育に必要な図書館資料の充実を図る」及び「利用者サービスの向上と環境整備を図る」について、図書館資料として、シラバス対応図書を優先的に整備する方針を立て、平成 19 年には利用状況を分析することで、副本として 2 冊目を配架していること、課題探究学習に資する専門教育図書を分野ごとに選定・配架し、体系的な整備を進めていること、また、貴重図書「玉里文庫」等の電子化を進め、データベースを公開していることは、教育に必要な図書の充実や情報提供サービスが図られている点で、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「全国共同利用機関としての外国雑誌センター館の機能強化を図る」について、農学系外国雑誌センター館として、東京大学と連携した稀少学術研究用雑誌の収集、海外文献複写依頼データの調査に基づいた全国稀少誌の選定・中止に係る精査、ドキュメント・デリバリーサービス（DDS）による利用の推進等、全国共同利用機関としての機能強化を図っていることは、特色ある取組であると判断される。

④ 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5 項目）のうち、1 項目が「良好」、4 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「良好」、4 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「ボランティア活動や体験活動を積極的に支援する」について、学生部を

中心として学内ボランティア団体の活動を支援し、ボランティア活動に対する組織的な対応を進めており、教育センターでは障害のある学生の入学を機に「ボランティア活動講習会」を開催し、学生ボランティアグループが結成されるなど、ボランティア活動への支援が活発に実施されていることは、優れていると判断される。

- 中期計画で「学生に対する質の高い健康管理を図る」としていることについて、健康管理センターでは、診療科目に新たに歯科と婦人科を開設し、また、学術情報基盤センターと共同で構築した学生定期健康診断データベースシステムより予約受診制としたことは、学生への良質なサービスを可能にし、定期健康診断の受診率にも改善が見られる点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「動機づけ教育や指導体制を充実し、留年者等の減少を図る」について、教育センターにおいて、担任教員に対する履修指導や学生指導の在り方についての講習会の実施や、学生に対するグレード・ポイント・アベレージ (GPA) 値に基づいた各学部長の助言・指導等により、休学・退学者数が減少傾向を示していることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「優れた留学生に対する育英制度等の支援体制を整備する」について、教職員による基金「鹿児島大学留学生後援会」を組織しており、育英制度として私費外国人留学生のための奨学制度や、多国籍合宿、留学生フェア等へ活動補助を実施していることは、特色ある取組であると判断される。

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標 (2項目) のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

(参考)

平成 16～19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標 (2項目) のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（7 項目）のうち、4 項目が「良好」、3 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、4 項目が「良好」、3 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「地域の諸問題解決をめざした研究を積極的に推進する」について、地域の特色ある産業との連携の成果として、寄附講座「焼酎学講座」を開設し、新たな焼酎酵母や焼酎粕の処理方法を開発するなど、関連分野の地域企業等と連携研究を進展させ、地域の諸問題解決を目指した研究を積極的に推進していることは、優れていると判断される。
- 中期計画「自然との共生など、地域資源の有効活用を図る研究を推進する」及び「地域資源循環型社会の構築に関する研究を推進する」について、総合研究博物館、多島圏研究センター及び生涯学習教育研究センターを中心として、地域資源の有効活用に関する研究成果を国内外の学会で発信し、また、廃食油からのバイオディーゼル製造や、食関連産業や水産業からでた廃棄物の有効活用等を進め、資源循環型社会の構築等に向けた特色ある研究が実施されていることは、優れていると判断される。
- 中期計画「「不安への挑戦」をテーマとし、人間の安全を脅かす様々な問題を解決する研究を推進する」について、異常プリオン、鳥インフルエンザ等の新興感染症の諸課題を解決するための多くの研究成果が公表されていることや、地域で発生した豪雨災害に対し、実態把握と原因究明を行うとともに、地域防災に関する情報提供システムを構築していることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「人間の健康を保全する大地・食・医療・環境に関する研究を推進する」について、健康長寿社会の確立を目指し、奄美地区を対象とした島嶼における健康長寿要因の解明に向け、学際的研究を推進していることは、高齢者人口の多い島嶼域を有する地域性が反映されている点で、特色ある取組であると判断される。

② 研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標 (11 項目) のうち、3 項目が「良好」、8 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、4 項目が「良好」、7 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>**(優れた点)**

- 中期計画「附属施設を含め学内で世界水準の研究が生まれる体制を整備する」について、専任教員 4 名を配置してフロンティアサイエンス研究推進センターを設け、センター内の戦略的研究企画推進委員会で重点領域研究テーマを選定するなど、同センターを戦略的研究企画の中心として機能させている。さらに、専任教員 2 名を配置した国際戦略本部の設置や水産学部とフィリピン大学によるリエゾンオフィスの相互開設等の体制整備を推進していることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画で「総合研究博物館を中心として学術標本を活用する体制を整備する」としていることについて、鹿児島フィールドミュージアム構想の下で、総合研究博物館では貴重資料や標本の収集とデータベース化が着実に推進され、それらを国内外に研究資料として提供していることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「連携大学院制度、寄附講座等の設置を促進する」について、専門職大学院等教育推進プログラムを共同研究テーマとした連携大学院の拡充や、特色ある焼酎学講座等の寄附講座の開設等により、多様な教育研究領域を拡充していることは、特色ある取組であると判断される。

(顕著な変化が認められる点)

- 中期計画「サバティカル制度を導入し、研究者の質の向上を図る」について、平成 16～19 年度の評価においては、計画に掲げられている研究者の質の向上を目的としたサバティカル制度の導入について、その考え方や体制の整備が十分な状況ではない点で「不十分」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、「教員のサバティカル研修に関する規則」を制定し、当該法人における教員の教育研究の遂行に必要な資質の向上や研究意欲の醸成を図るため、当該法人の教員として継続して勤務した期間が 7 年以上の者かつ原則として申請時に 60 歳未満の者を対象に、教員自らが研究目標を定めて一定の期間にわたり研究に専念する制度を設けている。また、学長裁量経費を基に「鹿児島大学若手 (45 歳以下) 教員海外研修支援事業」を実施し、欧米の研究機関等へ助教や准教授を派遣していることから改善されており、「おおむね良好」とな

った。

(Ⅲ) その他の目標

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「良好」であることから判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（6項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、2項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「非常に優れている」、2項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「地域産業の技術相談等に積極的に応え、問題解決を支援する」及び「県内外の企業や自治体等との共同研究などを積極的に行う」について、産学官連携推進機構を中心として、かごしま産学官交流研究会による交流会や相談会を開催し、鹿児島TLO、鹿児島産業支援センター、鹿児島県工業倶楽部との連携によって共同研究や受託研究を推進するとともに、醸造産業を対象としたリカレント教育組織「かごしまルネッサンスアカデミー」を開設し、有為な人材を輩出していることは、優れていると判断される。

- 中期計画で「留学生等の受入れや学生、教員の海外派遣を積極的に推進する」及び「海外、特に東アジア等の調査、研究並びにその成果の普及を通して国際社会への貢献を図る」としていることについて、教育研究活動の国際化に対応するために、国際戦略本部にプログラムディレクターとプログラムオフィサーを配置し、東アジア、東南アジア及び南太平洋諸国との連携や協定を進め、教員や大学院生等の海外派遣及び留学生の受入れ、国際共同研究や調査実施、成果の普及に努めたことにより、大学院生の国際会議参加状況が向上したことや東アジア等の各地域における多様な国際貢献活動が行われていることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「海外の大学等との交流や共同研究を積極的に推進する」について、滞在型学習や研究交流を促進するため、米国シリコンバレーに設けたオフィスに特任教員を配置し、大学院生の現地企業での研鑽や共同研究への働きかけを実施していることは、特色ある取組であると判断される。